

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年5月15日
【四半期会計期間】	第117期第1四半期（自 2018年1月1日 至 2018年3月31日）
【会社名】	株式会社ユーシン
【英訳名】	U-Shin Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡部 哉慧
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門一丁目1番30号
【電話番号】	03(5401)4670（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理財務本部長 田尾 和也
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝大門一丁目1番30号
【電話番号】	03(5401)4660
【事務連絡者氏名】	執行役員 経理財務本部長 田尾 和也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第116期 第1四半期連結 累計期間	第117期 第1四半期連結 累計期間	第116期
会計期間	自2016年12月1日 至2017年2月28日	自2018年1月1日 至2018年3月31日	自2016年12月1日 至2017年12月31日
売上高 (百万円)	38,321	40,925	168,632
経常利益 (百万円)	702	735	3,754
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失( ) (百万円)	144	295	4,086
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,277	1,139	6,255
純資産額 (百万円)	24,316	30,059	31,217
総資産額 (百万円)	135,439	135,495	137,592
1株当たり四半期(当期)純利 益金額又は1株当たり四半期純 損失金額( ) (円)	5.14	9.33	137.31
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	4.99	-	135.32
自己資本比率 (%)	16.8	21.1	21.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含んでおりません。
3. 第117期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの四半期純損失金額であるため記載しておりません。
4. 第116期は、決算期変更により2016年12月1日から2017年12月31日までの13ヶ月間となっております。
5. 第116期の決算期変更に伴い、第116期第1四半期連結累計期間は2016年12月1日から2017年2月28日まで、第117期第1四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年3月31日までと対象期間が異なっております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

前連結会計年度の決算期変更に伴い、前第1四半期連結累計期間は2016年12月1日から2017年2月28日までの3ヶ月間、当第1四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年3月31日までの3ヶ月間となっております。

当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高409億25百万円（前年同四半期比6.7%増）、営業利益14億85百万円（同56.9%増）となりました。経常利益は、メキシコペソ、ブラジルレアル等の新興国通貨に関する為替差損（3億96百万円）が発生したため、7億35百万円（同4.6%増）となりました。当期純損益については、昨年12月に実行した中国・無錫工場の持分取得に関する税金費用の計上もあり、純損失 2億95百万円を計上しました。（前年同四半期は純利益 1億44百万円）

各セグメントの業績は、以下のとおりです。

自動車部門は国内向けを中心に堅調に推移し、売上高342億93百万円（前年同四半期比6.3%増）、営業利益11億20百万円（同22.9%増）となりました。

産業機械部門は、売上高60億53百万円（同11.2%増）、営業利益 8億55百万円（同29.4%増）となりました。国内農機向けにおいて、前期に発生した排気ガス規制強化前の駆け込み需要の反動はありましたが、海外向け農機・建機関係の好調により補いました。

住宅機器部門は、売上高 5億77百万円（同3.7%減）、営業利益21百万円（同4.4%増）となりました。

#### (2) 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,354億95百万円となり、前連結会計年度末に比べて20億96百万円減少しました。流動資産では現金及び預金や棚卸資産が減少し、固定資産では有形固定資産、投資有価証券が減少しました。

負債は1,054億35百万円と、前連結会計年度末に比べて9億38百万円減少しました。主な内訳は、支払手形及び買掛金が減少した他、借り替えに伴い1年内返済予定の長期借入金（流動負債）が減少して長期借入金（固定負債）が増加しました。

純資産は300億59百万円と、前連結会計年度末に比べて11億57百万円減少しました。株式市場・為替市場の変動により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が減少したことによりです。

#### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は13億17百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2018年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2018年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	32,309,108	32,309,108	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	32,309,108	32,309,108		

(注)「提出日現在発行数」欄には、2018年5月1日からこの四半期報告書提出日までの転換社債型新株予約権付社債の転換により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2018年1月1日 ~2018年3月31日	-	32,309,108	-	14,546	-	14,652

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2017年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2018年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 672,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,620,700	316,207	-
単元未満株式	普通株式 16,408	-	-
発行済株式総数	32,309,108	-	-
総株主の議決権	-	316,207	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数30個が含まれております。

## 【自己株式等】

2018年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ユーシン	東京都港区芝大門 一丁目1番30号	672,000	-	672,000	2.08
計	-	672,000	-	672,000	2.08

(注) 当第1四半期会計期間末の自己株式数は、672,016株であります。

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。
  
- (2) 当社は、2017年2月24日開催の第115期定時株主総会において、定款の一部変更を決議し、決算日を11月30日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、前第1四半期連結累計期間は、2016年12月1日から2017年2月28日まで、当第1四半期連結累計期間は、2018年1月1日から2018年3月31日までとなっております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2018年1月1日から2018年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	27,699	26,113
受取手形及び売掛金	4 26,882	4 25,912
電子記録債権	4 2,798	4 5,062
商品及び製品	7,467	6,818
仕掛品	2,802	2,784
原材料及び貯蔵品	7,916	7,440
その他	5,686	6,468
貸倒引当金	761	702
<b>流動資産合計</b>	<b>80,491</b>	<b>79,898</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	12,467	12,069
機械装置及び運搬具（純額）	9,757	9,962
工具、器具及び備品（純額）	4,125	3,433
土地	8,736	8,720
建設仮勘定	5,623	6,085
<b>有形固定資産合計</b>	<b>40,711</b>	<b>40,270</b>
無形固定資産	1,212	1,091
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	12,255	11,564
その他	2,993	2,746
貸倒引当金	83	83
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>15,165</b>	<b>14,226</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>57,089</b>	<b>55,589</b>
繰延資産	11	7
<b>資産合計</b>	<b>137,592</b>	<b>135,495</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 23,158	4 20,945
電子記録債務	6,823	6,998
短期借入金	12,370	13,758
1年内償還予定の社債	6,632	6,697
1年内返済予定の長期借入金	11,651	8,020
製品補償引当金	471	291
その他の引当金	2,238	2,624
その他	19,221	18,090
流動負債合計	82,568	77,425
固定負債		
長期借入金	18,543	22,590
引当金	448	424
退職給付に係る負債	3,373	3,357
その他	1,440	1,638
固定負債合計	23,805	28,010
負債合計	106,374	105,435
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	14,546	14,546
資本剰余金	14,652	14,649
利益剰余金	1,193	1,488
自己株式	513	513
株主資本合計	27,490	27,193
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,749	4,268
繰延ヘッジ損益	150	149
為替換算調整勘定	2,191	2,545
退職給付に係る調整累計額	39	51
その他の包括利益累計額合計	2,367	1,522
新株予約権	1,321	1,321
非支配株主持分	37	22
純資産合計	31,217	30,059
負債純資産合計	137,592	135,495

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
売上高	38,321	40,925
売上原価	34,195	36,297
売上総利益	4,125	4,627
販売費及び一般管理費	3,179	3,142
営業利益	946	1,485
営業外収益		
受取利息及び配当金	58	96
為替差益	158	-
その他	26	93
営業外収益合計	243	189
営業外費用		
支払利息	148	130
コミットメントライン手数料	191	240
為替差損	-	396
償却原価法による新株予約権付社債利息	180	165
その他	66	106
営業外費用合計	487	939
経常利益	702	735
特別利益		
固定資産売却益	5	0
投資有価証券売却益	29	-
特別利益合計	34	0
特別損失		
固定資産除売却損	7	1
製品補償引当金繰入額	276	266
減損損失	8	65
事業構造改善引当金繰入額	13	341
特別損失合計	105	175
税金等調整前四半期純利益	631	560
法人税、住民税及び事業税	426	544
法人税等調整額	61	310
法人税等合計	487	854
四半期純利益又は四半期純損失( )	144	293
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	144	295

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	144	293
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	708	481
繰延ヘッジ損益	3	1
為替換算調整勘定	418	353
退職給付に係る調整額	3	11
その他の包括利益合計	1,133	845
四半期包括利益	1,277	1,139
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,277	1,140
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

## 【注記事項】

## (会計方針の変更)

米国を除く海外連結子会社において、当第1四半期連結会計期間よりIFRS第9号(金融商品)およびIFRS第15号(顧客との契約から生じる収益)を適用しております。

当該会計基準の適用が当社の連結財務諸表に及ぼす影響は軽微です。

## (四半期連結貸借対照表関係)

- 1 将来の資金需要に備えるため取引銀行11行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
貸出コミットメントの総額	12,000百万円	28,000百万円
借入実行残高	2,698	10,572
差引額	9,301	17,427

## 2 財務制限条項

一部の有利子負債及び貸出コミットメントには、純資産や利益に関する財務制限条項が付されております。

## 3 偶発債務

当社グループが納入した自動車部品に関する顧客による不具合対応費用の一部を負担する可能性があります。調査を継続中のため金額の合理的見積りが困難であり、引当金の計上は行っておりません。

## 4 期末日満期手形等の会計処理については、満期日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等が期末残高より除かれております。

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
受取手形	28百万円	69百万円
電子記録債権	209	154
支払手形	4	33

## (四半期連結損益計算書関係)

## 1 償却原価法による新株予約権付社債利息

当社が発行したゼロ・クーポン(無利息)の新株予約権付社債(以下、CB)については、会計処理として区分法を採用しており、CBの発行額のうち新株予約権部分の評価額を「新株予約権」として区分して純資産の部に計上し、その残額を「社債」として負債の部に計上しております。

本会計処理は、「社債」の金額を、株式転換が生じなかった場合の満期償還額(CBの発行額)まで、満期までの期間にわたり平均的に引き上げる処理(償却原価法)を行うものであり、各会計期間における引き上げ額について、「償却原価法による新株予約権付社債利息」と表示しております。当該引き上げ額は償却(アモチゼーション)であり、満期償還時を除いて現金支出を伴わないことを勘案し、「支払利息」とは区別して別科目で表示しております。

## 2 製品補償引当金繰入額

当社グループが納入した自動車部品に関して、顧客の不具合対応による費用発生に備えて引き当てており、状況の変化に伴い引当額の見直し等を行ったものです。

## 3 事業構造改善引当金繰入額

当第1四半期連結累計期間において、米州における生産体制合理化の一環として清算を予定している連結子会社YUHSIN U.S.A. LTD.について、生産拠点等の閉鎖・移管等に伴い見込まれる費用に備えるため、合理的な見積額を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
減価償却費	1,910百万円	1,847百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2016年12月1日 至 2017年2月28日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2016年12月1日 至 2017年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	自動車部門	産業機械部門	住宅機器部門	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	32,276	5,445	599	38,321	-	38,321
セグメント間の内部 売上高又は振替高	60	90	0	151	151	-
計	32,336	5,536	600	38,473	151	38,321
セグメント利益	911	660	20	1,593	647	946

(注)1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去7百万円及び全社費用654百万円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	自動車部門	産業機械部門	住宅機器部門	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	34,293	6,053	577	40,925	-	40,925
セグメント間の内部 売上高又は振替高	66	72	0	139	139	-
計	34,360	6,126	578	41,064	139	40,925
セグメント利益	1,120	855	21	1,997	512	1,485

(注)1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去9百万円及び全社費用522百万円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年12月1日 至 2017年2月28日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )	5円14銭	9円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (百万円)	144	295
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(百万円)	144	295
普通株式の期中平均株式数(千株)	28,094	31,637
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	4円99銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	832	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2018年5月15日

株式会社 ユーシン

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 轟 一成 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小出 啓二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユーシンの2018年1月1日から2018年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2018年1月1日から2018年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2018年1月1日から2018年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ユーシン及び連結子会社の2018年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。